

陸連時報 三

2015
平成27年

3 月号

題字は平沼亮三(初代陸連会長)の書

目 次

2015年を迎えて(専務理事 尾縣貢).....	182
理事会報告.....	183
2015日本グランプリシリーズ情報.....	186
JAAF公認コーチ養成講習会専門科目講習会報告(普及育成委員会 櫻田淳也).....	189
JAAF2014年度U-16トップトレーニングキャンプ報告(普及育成委員会 舟橋昭太).....	190
国際陸上競技連盟(IAAF)アスリートコミッション報告 (IAAFアスリートコミッション委員 室伏広治).....	192
国際陸上競技連盟(IAAF)から各国陸連等に発信される通達文書一覧.....	193
大会観戦ガイド.....	194
陸協NEWS.....	196
事務局からのお知らせ.....	198

公告

「陸連時報」は公益財団法人日本陸上競技連盟定款第4条第6号の「機関誌」の性格を有するものですが、毎月「陸上競技マガジン」と一体として発行しています。陸上競技に関する啓発記事のほか、必要に応じて、評議員会、理事会の決定事項、各専門委員会、事務局からの報告、通達も掲載いたします。本時報に掲載した通達は、公式に通達したものと取扱わさせていただきますので、登録競技者は本時報の掲載内容にご注意下さい。また、陸上競技指導者の方は、所属競技者にお知らせ下さるようお願い致します。

公益財団法人日本陸上競技連盟

2015年を迎えて

専務理事 尾 縣 貢



ジャック・ロゲIOC会長(当時)の“TOKYO”というコールから1年半近くが経過しました。この秋にはスポーツ庁設置が確実視されており、設置後には東京オリンピックに向けての種々の事業・活動の歩みが急加速するものと予想しています。

そのような激動が予想される中、陸上競技界はしっかりとしたコンセプトとプランを持って活動を進めていかなければなりません。ただ世の流れに身を任せているだけでは、何もできないままに2020年を迎えてしまうことにもなりかねないのです。

新たな年を迎え、2020年東京オリンピックを念頭においた上で、2015年の活動に取り組んでいく所存です。

北京世界陸上に臨む

原田康弘理事を強化委員長とする現行強化体制は、2016年リオデジャネイロオリンピックに向けた強化活動に着実に取り組んでいます。今年は、オリンピックを翌年に控えた重要な年であり、北京での世界陸上に総力をあげて取り組むこととなります。ロンドンオリンピック終了後から約3年間の強化活動の成果を試す場であるとともに、東京オリンピック開催決定後の初めての世界の場となります。最新の世界情勢を知ることにより、2020年の強化育成プランの再構築を考える機会にもなることでしよう。

2020年に向けての取り組み

1) アスリートの育成

昨年は、リオデジャネイロオリンピックへ向けての強化を進めつつ、2020年に向けての準備にも力を注ぐ一年でした。その活動は根を広く深くはって行くものであり、表に華々しく出るものではありませんでした。今年は一気に種々の活動を展開していく予定です。新年早々には既に一つのプロジェクトがスタートしました。それは、目利きで、2020年に活躍が期待できる若きアスリートを選び、一貫した強化をするというものです。選ばれたアスリート11名(14～18歳)は、“ダイヤモンドアスリート”と命名されました。本プロジェクト責任者の強化委員会副委員長・山崎一彦氏の言葉を借りると、「全員が東京五輪の主役。まだ磨かれていないダイヤモンド。

カットの仕方で輝きが変わる」ということです。若いうちから海外経験を積ませる等の策で、大切に原石を磨き上げていき、2020年に美しい光を放つダイヤモンドに育てていきたいと考えています。

2020年東京オリンピックプロジェクトチーム(統括：山崎一彦)では、種目変更を積極的に推進していく種目トランスファーについても推進しています。自分の能力を自身で確に評価することは難しいものであるため、専門家(強化委員など)の目により、タイミングを見計らい、より適した種目へのトランスファーを進めていくというものです。また、自分の能力に気づくことのできる競技会やイベントを設定していくことなども同時に考えなければなりません。さらには、野球、サッカー、バスケットボールなど陸上競技以外の競技を専門とする子どもたちに陸上競技を経験してもらい、自己の才能に気づき、陸上競技にトランスファーする機会を作ることも必要です。

小さな変化には小さな飛躍しか期待できません。2020年を合言葉に、大胆な改革を実行し、大きな飛躍を導きたいものです。これが、日本陸上の強化育成の根本を変えることにつながるものと確信しています。

2) コーチの育成

アメリカ陸連を訪問した際に、「100名のジュニア選手よりも1名の優秀なコーチの育成が重要」という話を聞きました。また、ロシア陸連の会長は、「強化拠点は、どのように作るのか?」という私の質問に、「優れたコーチがいるところに自然に拠点はできる」と回答されました。「素質のあるアスリートが湧き出てきてメダルを量産している」という両国に対する私の評価は、一瞬にして消え去りました。アスリートの強化育成を推進しようと考えた場合、コーチの育成にも力を注がないとならない、と強く決心した瞬間でした。

小学生、中学生、高校生、そしてトップアスリートで求められるコーチングは少しずつ異なってくるものです。しかしながら、多くの部分は共通していると言えます。全てのコーチに求められることは、「スポーツの未来、そしてアスリートの将来を託されている」という自負と責任を感じ、「競技力」と「人間力」に同等の価値を置きコーチングに当たるというものです。

2020年に至るプロセスで、コーチの育成を最重点課題の一つに位置付けたいと考えています。コーチ育成のシステムを構築すること、そして育成されたコーチは、間違いなく東京オリンピックのレガシーになることでしよう。

これらの活動を展開する上で、加盟団体、協力団体、スポンサー各社、陸上ファンの皆様の支えは必須となります。理事会および全委員会、事務局の総力を結集して、目標に向かってまいりますので、本年の日本陸上競技連盟の活動、そして2020年に向けての活動にご理解ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

理事会報告

第25回理事会

日時：2014年12月22日（月） 12時58分～15時27分

場所：ザ・プリンスパークタワー東京 B 2階「コンベンションホール」

【議題】

<協議事項>

1. 2015年度主要競技会日程
2. 第100回（2016年度）日本陸上競技選手権大会の開催地
3. 公認競技会規程及び公認記録規程
4. 第99回日本陸上競技選手権大会参加資格
5. 公認陸上競技場および長距離競走路ならびに競歩路規程（細則を含む）の改定

<報告事項>

1. 強化委員会新体制
2. 第17回アジア競技大会（2014／仁川）報告
3. 第15回世界陸上競技選手権大会（2015／北京）代表選手選考方針
4. 第21回アジア陸上競技選手権大会（2015／武漢）代表選手選考要項
5. 2015ワールドリレーズ（ナッソー）代表選手選考要項
6. 第41回世界クロスカントリー選手権大会（2015／貴陽）代表選手選考要項
7. 第1回アジアユース陸上競技選手権大会（2015／ドーハ）代表選手選考要項
8. 第9回世界ユース陸上競技選手権大会（2015／カリ）代表選手選考要項
9. ナショナルリレーチームメンバー（韋駄天スプリンターズ・楯スプリンターズ）報告
10. 2015年度強化競技者

【議事内容】

開会に先立ち、風間事務局長より理事定数29名、出席者数24名（2名遅刻にて出席のため計26名出席となった）で本理事会が有効に成立した旨を報告し議題に入る。

<協議事項>

1. 2015年度主要競技会日程
尾縣専務理事より資料に基づき説明があり、原案の通り承認された（陸連時報2015年2月号・230頁参照）。
2. 第100回（2016年度）日本陸上競技選手権大会の開催地
尾縣専務理事より資料に基づき説明があり、原案の通り愛知（瑞穂公園陸上競技場）での開催が承認された。
3. 公認競技会規程及び公認記録規程
尾縣専務理事より資料に基づき説明があり、原案の通り承認された。
4. 第99回日本陸上競技選手権大会参加資格（資料1参照）
原田理事・強化委員長より資料に基づき説明があり、原案の通り承認された。
5. 公認陸上競技場および長距離競走路ならびに競歩路規程（細則を含む）の改定
平塚施設用器具委員長より資料に基づき説明があり、原案の通

り承認された。

改定内容は下記の通り。

- ①国際陸上競技連盟認証のクラス1、クラス2競技場の資格取得申請につき、現行規定では国内の第1種公認陸上競技場ではないとしているが、2015年度より、公認競技会において世界記録およびエリア記録（アジアジュニア記録を含む）が樹立された場合は、第1種公認競技場以外でも国際陸上競技連盟のクラス2競技場の認証資格を取得のための申請ができるものとする。
- ②長距離競走路・競歩路の公認につき、今後は本連盟公認競技会として開催することを条件としてコースを公認するものとする。
なお、②の改定理由については下記の通り説明があった。
・本連盟の公認コースを取得している団体が、公認大会の申請や公認審判員の配置をせずに大会を開催したり、コースを変更したりしていることが散見されていること。
・公認コースであるため、記録が公認されると誤解した参加者からの苦情が寄せられていること。

<報告事項>

1. 強化委員会新体制
原田理事・強化委員長より資料に基づき報告があった。
2. 第17回アジア競技大会（2014／仁川）報告
原田理事・強化委員長より資料に基づき報告があった。
3. 第15回世界陸上競技選手権大会（2015／北京）代表選手選考方針（資料2、3参照）
平野強化委員会幹事より資料に基づき報告があった。
4. 第21回アジア陸上競技選手権大会（2015／武漢）代表選手選考要項（資料4参照）
原田理事・強化委員長より資料に基づき報告があった。
5. 2015ワールドリレーズ（ナッソー）代表選手選考要項
原田理事・強化委員長より資料に基づき報告があった。
6. 第41回世界クロスカントリー選手権大会（2015／貴陽）代表選手選考要項
原田理事・強化委員長より資料に基づき報告があった。
7. 第1回アジアユース陸上競技選手権大会（2015／ドーハ）代表選手選考要項
原田理事・強化委員長より資料に基づき報告があった。
8. 第9回世界ユース陸上競技選手権大会（2015／カリ）代表選手選考要項
原田理事・強化委員長より資料に基づき報告があった。
9. ナショナルリレーチームメンバー（韋駄天スプリンターズ・楯スプリンターズ）報告
原田理事・強化委員長より資料に基づき報告があった。詳細は本連盟WEBサイト（http://www.jaaf.or.jp/national_relay/）参照
10. 2015年度強化競技者（資料5参照）
原田理事・強化委員長より資料に基づき報告があった。

■資料1 第99回日本陸上競技選手権大会参加資格

第99回日本陸上競技選手権大会（2015／新潟）参加資格

1. 参加資格

2015年度本連盟登録者で、下記の（1）から（5）のいずれかに該当し日本国籍を有する競技者（日本で生まれ育った外国籍競技者を含む）。

但し、男女の5000m、10000mでは日本選手権参加標準記録Aを満たし、参加申込のあった外国籍競技者のうち、出場資格記録の上位6名までをオープン参加として出場を認める。

- （1）第98回日本陸上競技選手権大会の優勝者（但し、その種目による）。
- （2）2014年1月1日～2015年5月31日までに指定の参加標準記録Aを突破した競技者。
- （3）2015年度の地域選手権が2015年5月31日までに開催された場合は各種目1位、2位、3位入賞者で参加標準記録Bを満たした競技者。
開催されていない場合は2014年度の地域選手権各種目1位、2位、3位入賞者で参加標準記録Bを有効期間内に満たした競技者。
- （4）本連盟強化委員会が特に推薦する本連盟登録競技者。
- （5）開催陸上競技協会が推薦し本連盟強化委員会が承認する競技者。
- （6）但し、エントリー数の関係で競技運営上困難が生じた場合は、上記の参加資格を有する競技者であっても参加を制限されることがある。

2. 参加標準記録

男子		種目	女子	
A	B		A	B
10'40	10'50	100m	11'80	11'95
20'80	21'00	200m	24'30	24'60
46'85	47'10	400m	54'80	55'50
1'50'00	1'51'30	800m	2'09'00	2'10'50
3'48'00	3'50'00	1500m	4'22'00	4'24'00
13'46'00	13'55'00	5000m	15'40'00	15'50'00
28'27'00	28'48'00	10000m	32'30'00	33'00'00
14'00	14'15	110mH / 100mH	13'80	14'00
50'75	51'10	400mH	59'00	60'00
8'50'00	8'55'00	3000mSC	10'35'00	10'50'00
2m16	2m13	走高跳	1m75	1m72
5m30	5m25	棒高跳	3m80	3m70
7m70	7m60	走幅跳	6m05	5m95
15m90	15m75	三段跳	12m60	12m40
16m00	15m80	砲丸投	14m10	14m00
51m00	50m00	円盤投	47m00	46m00
63m00	62m50	ハンマー投	54m50	53m50
73m50	72m00	やり投	53m00	52m50

（注1）記録の有効期間は2014年1月1日～2015年5月31日まで。

（注2）室内競技会の記録も有効とする。

（注3）400m（含ハードル）までの記録は電気時計（写真判定装置）で計測したもののみ有効。

第99回 日本陸上競技選手権大会・混成競技(2015/長野)参加資格

1. 参加資格

2015年度本連盟登録競技者で、次の(1)から(5)のいずれかに該当し、日本国籍を有する競技者(日本で生まれ育った外国籍を有する競技者を含む)。

- (1) 第98回日本陸上競技選手権大会・混成競技優勝者。
- (2) 2014年1月1日～2015年6月7日までに次の参加標準記録Aを突破した競技者。
- (3) 2015年度の地域選手権が2015年6月7日までに開催された場合は各種目1位、2位、3位入賞者で参加標準記録Bを有効期間内に満たした競技者。
開催されていない場合は2014年度の地域選手権各種目1位、2位、3位入賞者で参加標準記録Bを有効期間内に満たした競技者。

- (4) 本連盟強化委員会が特に推薦する本連盟登録競技者。
- (5) 開催陸上競技協会が推薦し、本連盟強化委員会が承認する競技者。
- (6) 競技運営上困難が生じた場合は、上記の参加資格を有する競技者であっても参加を制限されることがある。

2. 参加標準記録

- (1) 男子十種競技 A 7000点 B 6850点
 - (2) 女子七種競技 A 4900点 B 4750点
- ※参加標準記録の有効期間は2014年1月1日～2015年6月7日まで。
- ※公認記録は、競技規則第260条27を満たすものとする。[第260条27一部抜粋：風速を計測する種目においては、平均秒速(個々の種目で計測された風速を合計し、これを種目数でわったもの)は、2mを超えてはならない。]

■資料2、3 第15回世界陸上競技選手権大会(2015/北京)代表選手選考方針

資料2 第15回世界陸上競技選手権大会(2015/北京)

トラック&フィールド種目代表選手選考方針

1. 編成方針

本大会及び、2016年に開催されるリオデジャネイロオリンピックでの活躍が期待できる競技者を中心として、メダル獲得及び入賞を目指すチームを編成する。

2. 選考競技会

- (1) 第17回アジア競技大会(2014/仁川)
- (2) 第99回日本陸上競技選手権大会(2015/新潟)
- (3) 第99回日本陸上競技選手権大会・混成競技(2015/長野)
- (4) 2015日本グランプリシリーズ(兵庫・和歌山・広島・静岡)
- (5) ゴールデングランプリ陸上(2015)
- (6) 2015ワールドリレーズ(ナッソー)
※男女4×100mリレー及び男女4×400mリレーのみ対象
- (7) 第21回アジア陸上競技選手権大会(2015/武漢)

3. 選考基準

編成方針に基づき、下記の優先順位で日本選手権に出場した競技者の中から日本代表選手を選考する。

- (1) 日本選手権終了時点の選考条件
1) 派遣設定記録^{#1}を満たし、日本選手権8位以内の最上位競技者
2) 参加標準記録を満たした日本選手権優勝者
3) 第17回アジア競技大会(2014/仁川)(以下、「仁川アジア大会」)の個人種目優勝者で参加標準記録を満たし、日本選手権で8位入賞した競技者
4) 派遣設定記録^{#1}を満たし、日本選手権8位以内の競技者
5) 第21回アジア陸上競技選手権大会(2015/武漢)(以下、武漢アジア選手権)の個人種目優勝者
6) 日本選手権、又は日本グランプリシリーズ・ゴールデングランプリにおいて、日本陸連が定める指定順位及び参加標準記録を満たした競技者(指定順位は2015年3月の理事会にて承認予定)
※選考基準1)、4)、6)における100m、200m、400m種目の選考は、2015ワールドリレーズ派遣選手を優先して選考する。
- (2) 参加標準記録による追加条件 ※本連盟が定める参加標準記録有効期間終了時点
1) 派遣設定記録^{#1}を満たし、日本選手権8位以内の最上位競技者
2) 参加標準記録を満たした日本選手権優勝者
3) 第17回アジア競技大会(2014/仁川)(以下、「仁川アジア大会」)の個人種目優勝者で参加標準記録を満たし、日本選手権で8位入賞した競技者
4) 派遣設定記録^{#1}を満たし、日本選手権8位以内の競技者
5) 日本選手権、又は日本グランプリシリーズ・ゴールデングランプリにおいて、日本陸連が定める指定順位及び参加標準記録を満たした競技者(指定順位は2015年3月の理事会にて承認予定)
※選考基準1)、4)、5)における100m、200m、400m種目の選考は、2015ワールドリレーズ派遣選手を優先して選考する。
- (3) Invitationによる追加条件(5000m、10000m以外)
※2015年8月10日以降
2015年8月10日以降、国際陸上競技連盟(以下、「IAAF」)からinvitationを受け、日本選手権、又は日本グランプリシリーズ・ゴールデングランプリにおいて日本陸連が定める指定順位を満たした競技者(指定順位は2015年3月の理事会にて承認予定)
ただし、下記の条件を満たしたものを追加する。

- 1) 100m、200m、400m

選考基準(4)で、既にリレー要員として選考されている競技者。

- 2) 男女800m、男女1500m、男女3000mSC、男子110mH、女子100mH、男女400mH
追加条件を別途定める(2015年3月の理事会にて承認予定)
- 3) その他のフィールド種目及び混成競技

- (4) リレー種目の選考
リレー要員としての代表選手は、種目の特性を考慮し、原則ナショナルリレーチームの競技者。

4. 選考方法

- (1) 選考条件
選考基準(1)1)、2)、3)による選考は、即時内定とする。
選考基準(1)4)、5)、6)による選考は、日本選手権終了後、編成方針及び選考基準に則り、強化委員会にて選考原案を作成し、選考委員会で選考し、理事会において決定する。
- (2) 参加標準記録による追加条件
本連盟が定める参加標準記録有効期間終了時点で、編成方針及び選考基準に則り、強化委員会にて選考原案を作成し、選考委員会で決定する。
- (3) Invitationによる追加条件
IAAFからInvitationを受け次第、選考基準を満たす競技者を代表選手として決定する。
- (4) リレー要員の選考
本連盟が定める参加標準記録有効期間終了時点で、編成方針及び選考基準に則り、強化委員会にて選考原案を作成し、選考委員会で決定する。

5. 補足

- (1) 日本陸連として定める参加標準及び派遣記録の有効期間の有効期間は、下記の通り。
10000m、混成競技：2014年1月1日～2015年7月31日
その他の種目：2014年10月1日～2015年7月31日
※1 派遣設定記録：本連盟が定める、世界ランキング12位相当の記録
※ IAAFが定める参加標準記録の有効期間は2015年8月10日まで。
- (2) リレー種目については、個人種目のエントリー状況などから総合的に判断し、派遣を検討する。
- (3) 本大会で8位入賞した日本人最上位の男女各1名の選手を、第31回オリンピック競技大会(2016/リオデジャネイロ)代表選手に条件付きで内定する。
- (4) 本大会までに故障等により、競技力を発揮できない事態が生じた場合は代表を取消すことがある。
- (5) 本大会は、2015年8月22日～8月30日まで北京(中国)で開催される。

【主なスケジュール】

2015年4月22日	プレントリーメ切
2015年5月2日～3日	ワールドリレーズ(ナッソー)
2015年6月3日～7日	アジア選手権(武漢)
2015年6月26日～28日	日本選手権(新潟)
2015年7月31日	日本陸連としての参加標準及び派遣設定記録の有効期限
2015年8月10日	ファイナルエントリーメ切
2015年8月10日以降	IAAFからのInvitation開始
2015年8月22日～30日	大会

資料3 第15回世界陸上競技選手権大会 (2015 / 北京)
参加標準記録・派遣設定記録

男子		種目	女子	
派遣設定記録	参加標準記録		派遣設定記録	参加標準記録
10.01	10.16	100m	11.09	11.33
20.28	20.50	200m	22.60	23.20
44.89	45.50	400m	50.59	52.00
1.43.98	1.46.00	800m	1.58.86	2.01.00
3.32.95	3.36.20 (3.53.30)	1500m	4.02.15	4.06.50 (4.25.20)
13.06.63	13.23.00	5000m	15.06.34	15.20.00
27.31.43	27.45.00	10000m	31.23.17	32.00.00
13.30	13.47	110mH/100mH	12.75	13.00
48.74	49.50	400mH	54.66	56.20
8.14.86	8.28.00	3000mSC	9.26.42	9.44.00
2.31	2.28	走高跳	1.94	1.94
5.70	5.65	棒高跳	4.60	4.50
8.26	8.10	走幅跳	6.84	6.70

※1500mの()内の記録は1マイル
※男子4×100mリレーは、既に出場権獲得済み。

男子		種目	女子	
派遣設定記録	参加標準記録		派遣設定記録	参加標準記録
17.21	16.90	三段跳	14.48	14.20
20.87	20.45	砲丸投	19.07	17.75
66.53	65.00	円盤投	63.94	61.00
79.11	76.00	ハンマー投	73.39	70.00
84.32	82.00	やり投	63.34	61.00
8311	8075	十種競技/七種競技	6325	6075
-	2:18:00	マラソン	-	2:44:00
1:20:12	1:25:00	20km競歩	1:29:21	1:36:00
3:44:36	4:06:00	50km競歩		
2014ワールドリレーズ上位8ヶ国 + IAAFランキング上位8ヶ国		4×100mリレー	2014ワールドリレーズ上位8ヶ国 + IAAFランキング上位8ヶ国	
2014ワールドリレーズ上位8ヶ国 + IAAFランキング上位8ヶ国		4×400mリレー	2014ワールドリレーズ上位8ヶ国 + IAAFランキング上位8ヶ国	

■資料4 第21回アジア陸上競技選手権大会 (2015 / 武漢) 代表選手選考要項

1. 編成方針

- 本大会で優勝を期待できる競技者を派遣し、第15回世界陸上競技選手権大会(2015/北京)(以下、北京世界選手権)に向けた競争を促進するため、より多くの北京世界選手権の参加権利を獲得することを目的とする。
- 第32回オリンピック競技大会(2020/東京)での活躍が期待される競技者に、国際経験の場を提供する。

2. 選考競技会

- 2015年日本グランプリシリーズ各大会(2015/広島・和歌山・兵庫・静岡)
- ゴールデングランプリ陸上 2015
- 2015ワールドリレーズ(ナッソー)

3. 選考基準

各種目における選考の優先順位は、下記の通り。

- トラック&フィールド種目
<100m、200m、400m以外の種目>
 - 有効期間内に、アジア選手権派遣設定記録^{※1}を満たし、選考競技会(1)又は(2)で日本人8位以内の競技者。
 - 本大会でメダル獲得を期待できる、選考競技会(1)又は(2)で日本人8位以内の競技者。
 - 強化育成部から推薦された今後国際大会で活躍が期待される競技者。
- 100m・200m・400m
 - 選考競技会(3)に派遣された競技者
 - 有効期間内に、アジア選手権派遣設定記録を満たし、選考競技会(1)又は(2)で日本人8位以内の競技者。
 - 本大会でメダル獲得を期待できる、選考競技会(1)又は(2)で日本人8位以内の競技者。

- 強化育成部から推薦された今後国際大会で活躍が期待される競技者。

(3) リレー種目

- リレー要員としての代表選手は、下記の優先順位で選考する。
- ナショナルリレーチームに所属する競技者。
 - 選考競技会(1)又は(2)において、100m、200m、400mで日本人8位以内の競技者。

4. 選考方法

全ての選考競技会終了後、選考基準に則り、強化委員会にて選考原案を作成し、選考委員会で決定する。

5. 補足

- 種目毎の代表は、アジア陸上競技連盟エントリールール以内の人数とする。
- 派遣設定記録の有効期間は2014年4月1日から2015年5月10日まで。
※1 派遣設定記録：本連盟が定める、世界ランキング32位相当の記録
- リレー種目については、個人種目のエントリー状況などから総合的に判断し、派遣を検討する。
- 本大会の優勝者は、IAAFの第15回世界陸上競技選手権大会(2015/北京)参加資格に従い、参加標準記録到達者の資格を有する。
- 本大会までに故障等により、競技力を発揮できない事態が生じた場合は代表を取消すことがある。
- 本大会は、2015年6月3日(水)～6月7日(日)まで武漢(中国)で開催される。

■資料5 2015年度 日本陸上競技連盟 強化競技者

ゴールドアスリート (3名)

No.	ブロック	氏名	所属	種目
1	投擲	新井 涼平	スズキ浜松AC	やり投
2	競歩	鈴木 雄介	富士通	20km競歩
3	女子長距離・マラソン	福土加代子	ワコール	マラソン

シルバーアスリート (6名)

No.	ブロック	氏名	所属	種目
1	跳躍	戸邊 直人	千葉陸協	走高跳
2	競歩	高橋 英輝	岩手大学	20km競歩
3	競歩	谷井 孝行	自衛隊体育学校	50km競歩
4	競歩	荒井 広宙	自衛隊体育学校	50km競歩
5	競歩	吉田 琢哉	盛岡市役所	50km競歩
6	混成	右代 啓祐	スズキ浜松AC	十種競技

※マラソン及び競歩は2014年度内の大会結果で追加。

※下記の選考要項は<http://www.jaaf.or.jp/athlete/2015daihyo/>参照

■2015ワールドリレーズ(ナッソー)代表選手選考要項

■第41回世界クロスカントリー選手権大会(2015/貴陽)代表選手選考要項

■第1回アジアユース陸上競技選手権大会(2015/ドーハ)代表選手選考要項

■第9回世界ユース陸上競技選手権大会(2015/カリ)代表選手選考要項

2015日本グランプリシリーズ情報

2015日本グランプリシリーズ大会情報

日本GP第1戦 第49回織田幹雄記念国際陸上競技大会
 兼 第15回世界陸上競技選手権大会 (2015 / 北京) 代表選手選考競技会
 兼 第28回ユニバーシアード競技大会 (2015 / 光州) 日本代表選手選考競技会

大会日	2015年4月18日(土)～19日(日)
大会会場	広島広域公園陸上競技場(旧 広島ビッグアーチ) 〒731-3167 広島市安佐南区大塚西五丁目1番1号 TEL: 082-848-8484 / FAX: 082-848-8460
大会事務局	〒730-0011 広島市中区基町4-1 広島県体育協会内 広島陸上競技協会 TEL: 082-223-3256 / FAX: 082-222-6991
大会本部ホテル	リーガロイヤルホテル広島(RIHGA ROYAL) 〒730-0011 広島市中区基町6-78 TEL: 082-502-1121 / FAX: 082-228-5415
申込ホームページ	http://www1.ocn.ne.jp/~hrk34/index.htm

日本GP第2戦 2015 日本選抜陸上和歌山大会
 兼 第15回世界陸上競技選手権大会 (2015 / 北京) 代表選手選考競技会
 兼 第28回ユニバーシアード競技大会 (2015 / 光州) 日本代表選手選考競技会

大会日	2015年4月25日(土)～26日(日)
大会会場	紀三井寺公園陸上競技場 〒641-0014 和歌山市毛見200 TEL: 073-444-7565
大会事務局	〒641-0014 和歌山市毛見200 紀三井寺公園陸上競技場内 和歌山陸上競技協会 TEL/FAX: 073-444-3662
大会本部ホテル	ホテルグランヴィア和歌山 〒640-8342 和歌山市友田町5丁目18番地 TEL: 073-425-3333 / FAX: 073-422-1871
申込ホームページ	http://wariku.com/

日本GP第3戦 第63回兵庫リレーカーニバル
 兼 第15回世界陸上競技選手権大会 (2015 / 北京) 代表選手選考競技会
 兼 第28回ユニバーシアード競技大会 (2015 / 光州) 日本代表選手選考競技会

大会日	2015年4月26日(日)
大会会場	ユニバー記念競技場 〒654-0163 神戸市須磨区緑台 TEL: 078-793-6150
大会事務局	〒650-8571 神戸市中央区東川崎町1-5-7 神戸新聞社 地域活動局事業部内 TEL: 078-362-7086 / FAX: 078-360-5519
大会本部ホテル	ANA クラウンプラザホテル神戸 〒650-0002 神戸市中央区北野町1丁目 TEL: 078-291-1121 / FAX: 078-291-1151
申込ホームページ	http://www.haaa.jp

日本GP第4戦 第31回静岡国際陸上競技大会
 兼 第15回世界陸上競技選手権大会 (2015 / 北京) 代表選手選考競技会
 兼 第28回ユニバーシアード競技大会 (2015 / 光州) 日本代表選手選考競技会

大会日	2015年5月3日(日・祝)
大会会場	静岡県小笠山総合運動公園 エコパスタジアム 〒437-0031 袋井市愛野2300-1 TEL: 0538-41-1800 / FAX: 0538-41-1807
大会事務局	〒420-0839 静岡市葵区鷹匠1-14-31 吉野壽ビル2F 静岡陸上競技協会 静岡国際陸上事務局内 TEL/FAX: 054-253-9801
大会本部ホテル	掛川グランドホテル 〒436-0028 掛川市亀ノ甲1-3-1 TEL: 0537-23-3333 / FAX: 0537-23-2290
申込ホームページ	http://www2.wbs.ne.jp/~nagata/t%26f/

2015 日本グランプリシリーズ開催期日及び種目配置

(男子)

種目	エントリー 規定数	参加標準記録	1		2		3	4
			織田記念		和歌山		兵庫	静岡国際
			4月18日(土)	4月19日(日)	4月25日(土)	4月26日(日)	4月26日(日)	5月3日(日・祝)
100m	24	10.45		予選/決勝				
200m	24	21.00	予選/決勝					NonGP
400m	24	47.20	予選	決勝				NonGP
800m	16	1.50.00						決勝
1500m	16	3.48.00					決勝	
5000m	-	13.46.00	決勝					
10000m	-	28.35.00					決勝	
110mH	24	14.00						予選/決勝
400mH	24	50.90						決勝
3000mSC	16	8.55.00					決勝	
走高跳	12	2m14						決勝
棒高跳	12	5m20						決勝
走幅跳	12	7m65					決勝	
三段跳	12	15m75		決勝				
砲丸投	12	16m00				決勝		
円盤投	12	50m00					決勝	
ハンマー投	12	62m50			決勝			
やり投	12	71m50		決勝				
十種競技	16	6800			決勝	決勝		
実施種目数(GP種目)			6		3		5	5

(女子)

種目	エントリー 規定数	参加標準記録	1		2		3	4
			織田記念		和歌山		兵庫	静岡国際
			4月18日(土)	4月19日(日)	4月25日(土)	4月26日(日)	4月26日(日)	5月3日(日・祝)
100m	24	11.90		予選/決勝				
200m	24	24.45	予選/決勝					NonGP
400m	24	55.30	予選	決勝				NonGP
800m	16	2.10.00						決勝
1500m	16	4.23.50					決勝	
5000m	-	15.50.00	決勝					
10000m	-	33.20.00					決勝	
100mH	24	13.85						予選/決勝
400mH	24	59.60						決勝
3000mSC	16	10.50.00					決勝	
走高跳	12	1m73						決勝
棒高跳	12	3m70		決勝				
走幅跳	12	6m00					決勝	
三段跳	12	12m40		決勝				
砲丸投	12	13m80				決勝		
円盤投	12	46m00					決勝	
ハンマー投	12	54m00			決勝			
やり投	12	53m00		決勝				
七種競技	16	4750			決勝	決勝		
実施種目数(GP種目)			7		3		5	4
男女計(GP種目)			13		6		10	9

※NonGP：ノングランプリ種目の詳細は、主催陸上競技協会内のホームページで確認のこと。

2015 日本グランプリシリーズ 申込要領						
兼 第15回世界陸上競技選手権大会(2015/北京)代表選手選考競技会						
兼 第28回ユニバーシアード競技大会(2015/光州)日本代表選手選考競技会						
参加資格	(1) 有効期限内に参加標準記録を満たした競技者 (2) 日本陸連強化競技者及び強化委員会が指定する競技者 (3) 主催陸上競技協会が承認した競技者 ○出場者は、主催者側が決定する。 ○競技運営上、参加標準記録を満たしても各種目の規定数に基づきエントリーできない場合がある。 ただし、エントリーされた上位競技者に欠場が出た場合は、主催者の判断で、繰り上げてエントリーされることがある。 ○各種目の、エントリーできる競技者の規定数は原則上記の通りとするが、主催者の判断で競技運営上問題がない場合、規定数以上の競技者をエントリーする場合がある。 ○5000m・10000mは規定数は設けませんが、競技運営上困難が生じた場合は参加資格を有する競技者であってもエントリーを制限されることがある。 ○参加標準記録を満たし、申込をした競技者で、規定数の関係でエントリーができなかった競技者の申込金は後日返金される。 ○日本陸連に登録している外国籍競技者のグランプリ種目への参加は、原則各種目の2014年度の最高記録を参考として上位6名までとする。					
参加標準記録有効期間	2014年1月1日より下記に定める各大会の申込締切日前日までとする。					
申込先・問合せ	別記 各大会事務局 ※主催陸上競技協会(広島・和歌山・兵庫・静岡)のホームページから各大会の申し込み方法に従い、申し込むこと。					
申込料	1種目 2,000円(招待競技者は無料)					
申込スケジュール	大会名	受付開始	申込締切	エントリーリスト公開	エントリーリスト更新日	大会
	日本GP第1戦 第49回織田幹雄記念国際陸上競技大会	3月13日(金)	3月27日(金) 13:00	3月31日(火)	4月10日(金)	4月18日(土) 4月19日(日)
	日本GP第2戦 2015日本選抜陸上和歌山大会	3月13日(金)	4月1日(水)	4月7日(火)	4月17日(金)	4月25日(土) 4月26日(日)
	日本GP第3戦 第63回兵庫リレーカーニバル	3月16日(月)	3月26日(木) 17:00	4月3日(金)	4月17日(金)	4月26日(日)
	日本GP第4戦 第31回静岡県国際陸上競技大会	3月13日(金)	4月8日(水) 13:00	4月14日(火)	4月24日(金)	5月3日(日・祝)
出場可否及びウェイトリフトからの追加について	出場可否については、各大会事務局より本人宛へ詳細(招待競技者も含め)を通知する。(大会HPでも公開予定) エントリーリスト公開の際に、参加標準記録を満たしたが規定数の関係でエントリーできなかった選手は、ウェイトリフトに登録される。 エントリーリスト公開後に上位競技者に欠場が出た場合は、主催者の判断でウェイトリフトの上位競技者から繰り上げてエントリーされる。 追加される際は、各大会事務局より本人に通知する。 ※エントリーが確定した競技者で故障等で棄権が決まった場合は、ウェイトリフトからの追加の関係もあるため、速やかに大会事務局まで棄権届けを提出すること。					

2015日本グランプリシリーズ招待選手

2015日本グランプリシリーズの招待基準と招待競技者は以下の通りとする。

1 招待基準

- 1) 日本陸連強化競技者（ゴールド・シルバー）
- 2) 日本陸連強化委員会指定競技者
- 3) 当該種目の2014日本ランキング1位の競技者

2 招待競技者一覧

(男子)

種目	招待競技者
100m	桐生 祥秀、高瀬 慧、山縣 亮太、 女部田 祐、大瀬戸 一馬
200m	高瀬 慧、飯塚 翔太、原 翔太、 猶木 雅文、谷口 耕太郎、 藤光 謙司、高平 慎士
400m	金丸 祐三、渡邊 和也、 小林 直己、加藤 修也
800m	川元 奨、田中 匠瑛、岡 昇平
1500m	村山 紘太、田中 佳祐、 廣瀬 大貴、監物 稔浩
5000m	鎧坂 哲哉、佐藤 悠基、 村山 謙太、窪田 忍、設楽 啓太、 設楽 悠太、上野 裕一郎、
10000m	高瀬 無量、菊地 賢人、村山 紘太、 服部 勇馬、大迫 傑、大石 港与
110mH	増野 元太、矢澤 航、大室 秀樹
400mH	小西 勇太、岸本 鷹幸、安部 孝駿、 吉田 和晃、中村 明彦
3000mSC	篠藤 淳、松本 葵、瀧澤 大記
走高跳	戸邊 直人、衛藤 昂、高張 広海
棒高跳	澤野 大地、山本 聖途、荻田 大樹、 笹瀬 弘樹
走幅跳	菅井 洋平、嶺村 鴻汰、高政 知也
三段跳	高橋 佑悟、石川 和義、佐脇 匠、 米澤 宏明
砲丸投	畑瀬 聡、山田 壮太郎、宮内 育大
円盤投	堤 雄司、米沢 茂友樹、宮内 優
ハンマー投	室伏 広治、赤穂 弘樹、保坂 雄志郎
やり投	新井 涼平、村上 幸史、 ディーン 元気、高力 裕也
十種競技	右代 啓祐、中村 明彦、音部 拓仁

4) 当該種目の2014日本選手権大会3位までの入賞者

5) 上記に該当しない2014年度日本ランキング上位の競技者の中から、日本陸連強化委員会及び主催者が特別に推薦する競技者

※男女の5000mと10000mは、両種目とも有効とする。

(女子)

種目	招待競技者
100m	福島 千里、土井 杏南、藤森 安奈
200m	福島 千里、市川 華菜、伴野 里緒
400m	青山 聖佳、松本 奈菜子、千葉 麻美
800m	大森 郁香、真下 まなみ、 谷本 有紀菜
1500m	陣内 綾子、飯野 摩耶、野田 沙織
5000m	福士 加代子、鈴木 亜由子、松崎 璃子、 萩原 歩美、尾西 美咲、西原 加純、 高島 由香、山崎 里菜、田中 華絵、 牧川 恵莉、前田 彩里、加藤 岬、 竹中 理沙、野村 沙世、清水 美穂、 森川 千明、竹地 志帆
10000m	
100mH	木村 文子、伊藤 愛里、 ヘンピル 恵
400mH	久保倉 里美、吉良 愛美、 青木 沙弥佳
3000mSC	三郷 実沙希、中村 真悠子、 堀江 美里
走高跳	福本 幸、渡邊 有希、井上 七海、 前田 愛純
棒高跳	我孫子 智美、濱名 愛、仲田 愛
走幅跳	甲斐 好美、五十嵐 麻央、水口 怜
三段跳	吉田 麻佑、前田 和香、山根 愛以
砲丸投	横溝 千明、福富 栄莉奈、松田 昌己
円盤投	高橋 亜弓、東海 茉莉花、敷本 愛
ハンマー投	綾 真澄、勝山 眸美、浅田 鈴佳
やり投	海老原 有希、宮下 梨沙、山内 愛
七種競技	ヘンピル 恵、桐山 智衣、 竹原 史恵、松原 恵

JAAF公認コーチ養成講習会 専門科目講習会報告

普及育成委員会 櫻田 淳也

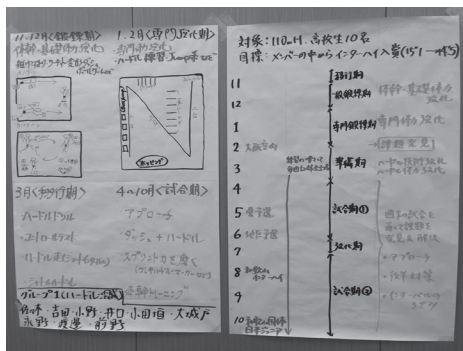
2014年12月23日～26日の4日間の日程で、JAAF公認コーチ（日体協公認陸上競技コーチ）養成講習会専門科目講習会を味の素ナショナルトレーニングセンターにて開催した。公認コーチ養成の目的は、都道府県で競技者・指導者育成の中心的役割を担う者を養成することである。受講資格は各都道府県陸協、及び日本陸連から推薦を受けた者に限られ、本年は都道府県陸協で強化担当を務める中学や高校の教員、現役を引退したアスリート、実業団所属の指導者等55名が受講した。資格取得には日体協主催の共通科目集合研修と本連盟主催の専門科目集合研修40時間、自宅学習20時間を受講し、試験に合格する必要がある。

専門科目集合研修は別表にあるように、基礎理論、実技、指導実習の大きく3つに分けて実施した。基礎理論では日本陸連強化副委員長の麻場一徳氏から2020年東京オリンピックへ向けた日本陸連の強化方針、タレントトランスファー（競技・種目変更）の考え方、科学委員長の杉田正明氏から最新の運動生理学に関する講義等を行った。また、長崎陸協の澤田洋氏による2014年長崎国体に向けた長崎陸協の取組の講義をはじめとする具体的な事例検証も行った。実技では、短距離、ハードル、跳躍、投てき、混成競技と幅広く行い、女子短距離部部長の瀧谷賢司氏からトップ選手のベースとなる体幹トレーニングの実習等を行った。指導実習では、振り分けられたグループごとにディスカッションを行い、ポスター発表、プレゼン、質疑応答を行った。本年も例年通り、ディスカッションが白熱し、講習終了後も遅くまで熱心に課題に取り組むグループが多く見られた。受講生からの意見として、最新の理論や指導方法を学ぶことができたという意見はもちろん、集合研修を通して指導者同士の意見交換ができたことが良かったという意見が多くあり、来年度以降も、指導者同士が積極的に意見交換できる場を設けていきたい。なお、専門科目の合格者には、2月中旬に日本陸連から

修了証が送られる予定である。

日本陸連は、公認の指導者を5,000人養成することを目標に掲げ、2012年度よりJAAF公認コーチ（日体協公認陸上競技コーチ）とJAAF公認ジュニアコーチ（日体協公認陸上競技指導員）の新制度へ移行した。JAAF公認ジュニアコーチについては2014年度全国12ヶ所で実施され約350人が資格取得予定である。今回の公認コーチ講習会受講者を含めると約400人を新たに養成したことになり、旧制度を含めた指導者数は3,000人を突破する予定である。今後も、公認資格取得の啓蒙活動を積極的に行い、各都道府県陸協と連携して2020年東京オリンピックに向けてより多くの指導者を養成していきたい。一方で資格取得者に対する情報発信や資格更新の義務研修の推奨等の取組を行い公認資格取得が一過性のものとならないようにすることも重要である。

なお、JAAF公認ジュニアコーチの2015年度の募集については4月以降本連盟のWEBサイトに告知予定であり、積極的な受講を期待したい。



ポスター発表の様子

2014年度JAAF公認コーチ（日体協公認陸上競技コーチ）養成講習会専門科目講習会日程表

日程	第1日			第2日			第3日			第4日		
期日	12月23日(火)			12月24日(水)			12月25日(木)			12月26日(金)		
会場	味の素ナショナルトレーニングセンター			味の素ナショナルトレーニングセンター			味の素ナショナルトレーニングセンター			味の素ナショナルトレーニングセンター		
時間	基礎理論	科目名(時間)	講師 役員	基礎理論	科目名(時間)	講師 役員	基礎理論	科目名(時間)	講師 役員	基礎理論	科目名(時間)	講師 役員
	実技			実技			実技			実技		
指導実習	指導実習	指導実習	指導実習	指導実習	指導実習	指導実習	指導実習	指導実習	指導実習	指導実習	指導実習	
9:00		陸上競技の種目別指導演習 (1時間)	繁田進	基礎理論	陸上競技の各種理論 (1.5時間) 食事と栄養	田口素子	基礎理論	陸上競技の各種理論 (1.5時間) スポーツ障害	鳥居 俊	実技	陸上競技の種目別指導 (2時間) 跳躍	吉田孝久
10:00		陸上競技の各種理論 (1.5時間) 一貫指導	繁田進	実技	陸上競技の種目別指導 (2時間) 競歩	三浦康二	基礎理論	陸上競技の各種理論 (1.5時間) バイオメカニクス	榎本靖士	実技	陸上競技の種目別指導 (2時間) トレーニング	小林敬和
11:00		休憩			休憩			休憩			休憩	
12:00	基礎理論	陸上競技の各種理論 (1時間)	麻場一徳		休憩		実技	陸上競技の種目別指導 (2時間) 長距離	榎本靖士		休憩	
13:00	基礎理論	陸上競技のルール (1.5時間)	鈴木一弘	実技	陸上競技の種目別指導 (2時間) 投擲	大山下圭悟		陸上競技の種目別指導 (2時間) 短距離	瀧谷賢司	実技	陸上競技の種目別指導 (2時間) ハードル	浅見公博
14:00	基礎理論	陸上競技のドーピング防止 (1.5時間)	山澤文裕	実技	陸上競技の種目別指導 (2時間) コンディショニング	大山下圭悟	実技	陸上競技の種目別指導 (2時間) 短距離	瀧谷賢司	基礎理論	陸上競技の各種理論 (1.5時間) コーチングスタイル	尾藤賢
15:00	基礎理論	陸上競技の種目別指導 (2時間) 混成	眞鍋芳明	基礎理論	陸上競技の各種理論 (1.5時間)	河野裕二	基礎理論	陸上競技の各種理論 (1.5時間)	澤田 洋	指導実習	陸上競技の種目別指導演習 (1時間)	繁田進
16:00	実技	陸上競技の種目別指導 (2時間) 混成	眞鍋芳明	基礎理論	陸上競技の各種理論 (1.5時間)	河野裕二	基礎理論	陸上競技の各種理論 (1.5時間)	澤田 洋	指導実習	陸上競技の種目別指導演習 (1時間)	繁田進
17:00	基礎理論	陸上競技の各種理論 (1.5時間) 運動生理学	杉田正明	指導実習	陸上競技の種目別指導演習 (2時間)	坂井智野風	指導実習	陸上競技の種目別指導演習 (1時間)	岩盤達男	指導実習	陸上競技の種目別指導演習 (1時間)	櫻田淳也
18:00	基礎理論	陸上競技の各種理論 (1.5時間) 運動生理学	杉田正明	指導実習	陸上競技の種目別指導演習 (2時間)	坂井智野風	指導実習	陸上競技の種目別指導演習 (1時間)	岩盤達男	指導実習	陸上競技の種目別指導演習 (1時間)	櫻田淳也
19:00	基礎理論	陸上競技の各種理論 (1.5時間) 運動生理学	杉田正明	指導実習	陸上競技の種目別指導演習 (2時間)	坂井智野風	指導実習	陸上競技の種目別指導演習 (1時間)	岩盤達男	指導実習	陸上競技の種目別指導演習 (1時間)	櫻田淳也
20:00	基礎理論	陸上競技の各種理論 (1.5時間) 運動生理学	杉田正明	指導実習	陸上競技の種目別指導演習 (2時間)	坂井智野風	指導実習	陸上競技の種目別指導演習 (1時間)	岩盤達男	指導実習	陸上競技の種目別指導演習 (1時間)	櫻田淳也
合計時間	基礎理論(7h) 実技(2h) 指導実習(1h)			基礎理論(3h) 実技(6h) 指導実習(2h)			基礎理論(4.5h) 実技(4h) 指導実習(2h)			基礎理論(1.5h) 実技(6h) 指導実習(1h)		
			合計10h			合計11h			合計10.5h			合計8.5h

JAAF2014年度U-16トップトレーニングキャンプ報告

普及育成委員会 舟橋 昭太

1. 主 旨：各都道府県での優秀選手を中央に集め、タレント発掘と将来的に一流選手になる為の意識付け、及び指導者に対する教育・競技者育成プログラムの啓蒙活動を行う。
2. 主 催：公益財団法人日本陸上競技連盟
3. 後 援：公益財団法人日本中学校体育連盟
4. 協 賛：アシックスジャパン株式会社
5. 期 日：2015年1月10日(土)～2015年1月12日(月・祝)
6. 練習会場：味の素ナショナルトレーニングセンター
7. スタッフ
 普及育成委員会委員長
 繁田 進
 普及育成委員会副委員長
 岩壁 達男 伊藤 静夫
 普及育成委員会U16部長
 渡部 誠
 U16キャンプ総括
 舟橋 昭太
 普及育成委員会委員
 松田 克彦 秋元 恵美 上野祐紀子
 大畑 好美 岸 政智 桜井智野風
 櫻田 淳也 下山 良成 長岡 樹
 長坂 聡子 平山 公紀 山田真由美
 佐伯 徹郎 森 健一 田代 章
 日本陸連事務局
 三宅 聡 藤代 晃司 畔蒜 洋平

8. 日 程

U-16トップトレーニングキャンプは、①16歳以下(主に中学1、2年生)で各都道府県にいる優秀選手を集め、

タレント発掘と将来的に一流選手になる為の意識付けを行うと同時に、②引率する指導者に対する教育・競技者育成プログラムの啓蒙活動を行うことを目的に、2010年度より実施している。

参加選手は、47都道府県陸協から推薦された中学1、2年生の男女各1名、JAAFアスリート発掘・育成プロジェクトU-16クリニックの開催地からの推薦者2名(2014年度は沖縄)を加えた96名である。いずれの選手も各都道府県大会やブロック大会で上位入賞の実績を残し、将来が期待されている選手たちである。開講式では、各選手が全員の前に立ち、緊張感溢れる中、自己紹介を行った。ほとんどの選手が、全国大会の入賞・優勝を目標に掲げていた。「将来は100mで人類初の8秒台を出してみたい」という非常に頼もしい発言をする選手もいた。

同日に2020年東京オリンピックでの活躍が期待されている「U19オリンピック育成競技者」も味の素NTCで合宿を行っていた。陸上トレーニング場での実技では、横目に2020年東京オリンピックでのメダル獲得に向かって必死に取り組む先輩たちの姿を見ることができたことは、選手たちにとって数年後の自分の姿を想像できる刺激的な環境となったのではないだろうか。

日本陸連の選手育成の方針として、タレントトランスファー(競技・種目変更)を重視しておりU16の年代においては、様々な種目を経験してもらいたいと考えている。初日のプログラムでは、特定の種目に特化することなく、ハードル、走高跳、投てき種目を実施した。初めて専門種目以外の種目を行った選手もいたが、ほとんどの選手が上手くこなしており、ポテンシャルの高さに感心させられた。実際に、今回の参加者は短距離種目の選手が多かったが、全日程終了後に行ったアンケートにも、

時刻	1/10(土)	1/11(日)	1/12(月)
6:00		起 床	起 床
6:30		朝 食	朝 食
		移 動	移 動
9:00		【種目別練習】 男子短距離(平山) 女子短距離(櫻田) 中距離(佐伯) ハードル(長岡・秋元) 走高跳(松田・森) 走幅跳(岸・山田・下山) 投擲(上野・桜井)	選 手 指 導 者
12:00		【コントロールテスト】 30mダッシュ	【種目別練習】 男子短距離 女子短距離 中距離 ハードル 走高跳 走幅跳 砲丸投 やり投 円盤投
13:00	【受付】 【開講式】 【基本の実技】 ハードル 走高跳 投擲	【昼食・休憩】	【理論講習】 タレント発掘に関する考 え方(伊藤)
18:00	【講義】 栄養と食事① (大畑) 【夕食】 【講義】 栄養と食事②	【コントロールテスト】 その他6種目 【講義】 コンディショニングとセルフケア	【指導者講習会】 ハードル・走高跳・投擲の実技指導
19:00			【閉講式・解散】

表1 U-16トップトレーニングキャンプ種目別練習の内訳

種目	男	女	合計
短距離	20	21	41
中距離	1	0	1
ハードル	7	9	16
走高跳	2	6	8
走幅跳	10	8	18
投てき	8	3	11



2014年度のキャンプ参加メンバーたち

短距離の選手が「高跳びで意外と高く跳べて自分でも驚いた」といったことも書かれており、選手自身も手応えを感じているようであった。

また、投てき種目では、ジュニアオリンピックで使用しているものよりも長いターボジャブ（500グラム）を経験してもらった。選手たちからは、「難しいけれど面白かった」という意見もあり非常に好評であった。選手の中には、70mを飛ばす選手がおり、急遽、隣で実際のやりを使って練習していたU19オリンピック育成競技者の練習に加わるという、嬉しい発見もあった。

理論講習は、栄養と食事に関して、3部構成で実施した。1部では「ジュニア選手の食事の基本」の講義を行った。将来世界陸上やオリンピックで活躍する為には、U16の時期から栄養を考えた食事をすることの重要性を説明した上で、主食・主菜・副菜・乳製品・果物の理解を促した。第2部は実際に食堂に移動して、講義で学んだことを実践した。国立スポーツ科学センターの食事は、バイキング形式となっているため、何をどれだけ食べれば良いか各選手に考えて食事を選んでもらった。食事後の第3部は再び講義を行い、実際に食べた感想を選手から聞くことや、エネルギーとたんぱく質の必要量計算や間食の考え方等について講義を行った。

2日目の午前は、種目別練習を男子短距離20名、女子短距離21名、中距離1名、ハードル16名（男子7、女子9）、走高跳8名（男子2、女子6）、走幅跳18名（男子10、女子8）、投てき11名（男子8、女子3）の人数で練習を行った。（表1）2日目となると、緊張もほぐれ、各種目とも元気な声を出しながら自分のものにしてと意欲的に取り組んでいた。練習内容については、各種目の基本的な動作を重視して行った。U16の時期は、心身ともに成長著しく、不安定な時期である。中学時代に各都道府県チャンピオンの様な成績を残した選手でも、その後伸び悩むケースは非常に多い。今回も実力ある選手たちにとっては少々物足りない部分があったかもしれないが、基本の重要性を再確認して欲しいという意図のもと

実施した。種目以前に簡単な動作を左右両方で行ってもらおうと、得手不得手がある選手が多くおり、バランス良く体を使えるようになることが将来の成長には重要であることを選手たちに伝えた。

また、基本的な運動能力を図るコントロールテストを実施した。内容は、30mダッシュ、ホッピング左・右、メディスンボール投げ前・後、立ち幅跳、立ち5段跳の7種目を実施した。選手たちに、事前に記録カードを渡し、自分で記録を記入してもらった。数字として結果が現れるので、選手自身に弱点を気づいてもらい、キャンプ後の練習に活かして欲しいということを用意して行った。バランス良く記録を出すことが望ましいが、30mダッシュが好記録でも、メディスンボール投げでは、あまり記録が出ないといった記録に偏りがある選手が多かった。

種目別練習の後は、室内に場所を移し、医事委員会・村上博之トレーナーよりコンディショニングとセルフケアの実習を行った。基本的なストレッチから、青竹踏み、テニスボール、ゴルフボールを用いたセルフケアや自らアイスパックを作ったのアイシングの基本を学んだ。様々な実技をすることで自分の身体に変化があることに選手が驚いていたことが印象的であった。

3日目、キャンプの締めくくりは、引き続き種目別練習に時間を費やした。それぞれ友達もできて良い雰囲気での練習ができた。最終日ということもあり多少疲労感があったが、前日より各種目ワンランク上の練習を行った。投てきブロックでは、U16では実施していない円盤投、やり投を経験してもらった。選手たちも笑顔は絶やさないが、練習で競い合う姿は、真剣そのものであった。

閉講式では、代表して2015年全中大大会開催地である北海道の選手から一言「キャンプで学んだことを活かして北海道全中で頑張りたい。みなさんをお待ちしています!」と感想を述べてもらった。各選手にもキャンプの感想を書いてもらったところ、意外にも「自分には積極性が足りない」という意見が多く見られた。普段は全国大会でライバル関係にある選手たちも、今回のキャンプを通して仲間として共に時間を過ごすことで多くの気付きがあったのではないだろうか。全中で、今回キャンプに参加した選手たちが、どのような成長を遂げているのか、今から待ち遠しい。

U-16トップトレーニングキャンプは2010年度から実施している。今回で5回目の開催となり、約500名の選手が参加したことになる。本キャンプを経験した選手が、将来オリンピックや世界陸上で活躍することが大いに期待される。過去本キャンプに参加した選手で、2020年東京オリンピックでの活躍が期待される「U19オリンピック育成競技者」に選出された選手は12名、その中でも特にメダル獲得が期待される「ダイヤモンドアスリート」に選手された選手が3名いる。（表2）また、同日開催されたU19オリンピック育成競技者の合宿に、中体連推薦の中学3年生選手23名が参加していたが、9名が本キャンプの2012年度、2013年度に参加した選手であった。2014年度に参加した選手の中からひとりでも多くの選手が次のステップでも選ばれ、その先の大舞台上で活躍することを期待したい。

表2 U-16トップトレーニングキャンプ過去参加選手におけるU19オリンピック育成競技者及びダイヤモンドアスリートの選出状況

参加年度	名前	U19オリンピック 競技育成者	ダイヤモンドアス リート
2010年度	佐久間 凜大	○	○
	中澤 優	○	
	石山 歩	○	
	高松 望 ムセンビ	○	
2011年度	山下 潤	○	○
	エドバー イヨバ	○	
	剣持 クリア	○	
	柴山 沙也香	○	
	幸長 慎一	○	
	高橋 ひな	○	
2012年度	福田 翔子	○	
	池川 博史	○	○

表3 U-16トップトレーニングキャンプ過去参加選手におけるU19オリンピック育成競技者合宿中体連推薦選手選出状況

参加年度	名前
2012年度	宮本 大輔、村岡 柊有
2013年度	久保木 春佑、宮本 大輔、木下 博貴、山田 美来、吉野 史織、真鍋 杏実、橋本 梨沙

国際陸上競技連盟 (IAAF) アスリートコミッション報告

IAAF アスリートコミッション委員 室伏 広治



写真1

自身2003年から現在に至るまで、国際陸上競技連盟 (IAAF) のアスリートコミッション委員を務めさせていただいている。IAAFではアスリートの意見が、これまでも大きく反映されてきたが、コミッションは、これまで陸上界がより良いものになるように、様々な形で問題提起をし、その時代に必要

なルール改正や、将来に向けての在り方を議論してきた。今回の会議は、IAAF コンチネンタルカップ期間中の2014年9月13日 (土) に、モロッコのマラケシュで行われた。簡単ではあるが、会議で話し合われた内容を報告したい。

1. 1日で実施の国際大会のユニフォーム

ダイヤモンドリーグ等1日で行われる国際大会での、ナショナルユニフォーム着用の提案について。個人参加の国際大会では、競技中、選手はIAAF規則のもと、自由な服装を着用することができる。しかし短距離や長距離種目で、同じ国の選手が同じメーカーのウェアを着用し試合を独占することから、選手の見分けがつかない (写真1参照)。このことが陸上の人気低迷につながっていることから、選手は自国のナショナルユニフォームを着用すべきだとイギリス陸連とスウェーデン陸連が先のIAAF総会で提案したのだった。コミッションの結論からすると人気低迷と関係性はないと判断。むしろアマチュアリズムの発想に戻り、アスリートとアパレルメーカーとの自由な契約に制約が出てしまうことを危惧する。また、長距離などは、同じ国の選手が上位を独占することも多いので、ナショナルユニフォームを着用させたところで問題は解決に至らないのではという意見が多かった。それよりも、あらゆるデバイスによるテクノロジーの導入、分りやすいコメントターの解説と共に選手が誰でもすぐに見分けがつく工夫、視聴者へのサービスなどの導入についての重要性を話し合った。またアパレルメーカー側からすれば寝耳に水であり、より多くの選手に自社のウェアを着てもらうことに社運をかけていることから、この提案に対してはネガティブな反応であった。今回の提案については受け入れられることはなかったものの、陸上の人気低迷に歯止めをかけるには、どのような改革が必要なのかという大切な議論を誘導するという意味では良い提案であったと言える。

2. アスリート・オブ・ザ・イヤー (AOY) の選考基準

毎年秋に年間最優秀選手AOYを決めるIAAFのGALAパーティーが行われている。この選考基準について、コミッションでは、前回会議で大きな議論になった。ここしばらく跳躍選手や投てき選手が歴史的な記録を達成してもAOYが授与されず、注目の集まりやすい短距離選手を受賞が続いていることに対して、公平な選考基準ではないのではないかという内容であった。結果、短距離、長距離、投てき、跳躍など、すべてのカテゴリーでそれぞれを表彰するべきであるとIAAFカウンシルに提案した。

2014年のAOYでは、IAAFの範囲を超え、すべてのスポーツ関係団体、関係者へと波紋が広がった案件があった。それはアメリカの短距離選手で過去にドーピングで資格停止になったJustin Gatlinが、2014年すべての大会で優勝したことから、AOY候補者としてノミネートされる可能性があったのだが、同様に候補と目されていたドイツの円盤投選手Robert Hartingが、もしGatlinがノミネートされた場合、AOY候補を辞退することをアナウンスしたのだった。

コミッションでの意見は大きく分けて2つあり、まず1つ目は、過去にドーピング検査で陽性になった選手は、どれだけ良い成績をその後残したとしても、その後、AOYを授与するべきではないという考えで、さらにそれにより今後のドーピングに対する抑止力につながるという意見。もう一方は、違反者の尿、血液検体から陽性反応が検出されて、その後4年間の出場停止の処分を受けた後、競技生活に戻り再度競技会に復帰しチャレンジする場合、一度までは復帰

できるといふ規則からも、そこで処分はリセットされるべきであるという考えである。これは、裁判などでもよく出る案件だが、二度懲罰は与えてはならないという、法的にいうとDouble Jeopardy (一事不再理) の法則に当たるのではという意見だった。コミッションとしては、過去にドーピングで「深刻な問題を起こした選手」には、AOYを与えるべきでないという考えを、カウンシルに提案することとなった。2015年から発効した新しいWADA Code (世界アンチ・ドーピング規程) では、彼らが現役を引退してもコーチ業をすることに制限が加わるなど、ドーピング使用者やその周りのスタッフに対してさらに厳しい措置が課せられる事となった。日本の選手や関係所属団体は、バックグラウンドを調べず、闇雲に好成績を残している海外の選手やコーチのもとを訪れ、師事しているケースを見かける。私も厳しく注意を促しているが、成績や実績だけでなく、背景も理解して合宿に向向いてもらいたい。あとから傷つくのは、自分だけでなく、所属チーム、日本陸連であることから、徹底したい。何れにしてもドーピング違反者に対しての周りの目は、いっそう厳しくなっているが、これもクリーンアスリートを守るための大切な意識改革なのである。

3. ワールドリレーズ

2014年にハワイで開催されたワールドリレーズの成功は、陸上界の将来に確かな手応えを感じさせ、大変大きな自信になるとIAAFは感じているが、コミッションも同様の考えである。これまでのリレーの常識を大きく超えた大会の演出は、選手にとっても、大変やりがいのある大会であった。観客も選手と一体に盛り上がり、審判やオフィシャルがやりがいを持って任務に就いている様子がうかがえる。表彰式の演出も素晴らしい、どの国際大会よりも選手自身が祝福されている様子がうかがえる。我々選手は、自身が表彰台に立つことを夢見てトレーニングに励んでいるが、形式的なものでなく、心からもてなされる姿を見て、より頑張りたいと思う選手も多くなるだろう。コミッションは、2015年大会では、4×1500mリレーに代わる中距離メドレーリレーを盛り込むことをカウンシルに提案した。

4. Athletics for Better World

Athletics for Better WorldはIAAFのプロジェクトで、トップアスリートのプレセンスを生かし、スポーツを通して社会貢献活動を行う事業である。これまで、世界の貧困地域などで、子供達と運動をしたり、人々との交流をしたりしてきた。今回私自身もモロッコのマラケシュから車で2時間ほどの小さな村での活動に他の委員と共に参加した (写真2参照)。地元からは、ムータワキル、アウイタ、エルゲルージュらの著名な仲間も加わり、子供達とスポーツの交流を行った。この地域の村は近代化が全く進んでおらず、生活することさえ困難な場所だ。しかし、ナワル委員の支援により水道が引かれたり、子供達の遊べるグラウンド等が造られたり、多少のインフラ整備が進んでいた。この日子供達と共に、走、跳、投を組み合わせた、独自のプログラムによって、スポーツを通じた交流を行った。子供達の目は、見たことないくらいに輝いていた。それもそのはずで、こういった地域からオリンピックを夢見る子供達が現れ、有能な選手を輩出することもある。特にエルゲルージュはこのような大変しい村の出身ながら、世界でもっとも成功した長距離ランナーとなったことから、子供たちのヒーローなのだ。陸上競技の力で、継続したプログラムを支援して行きたい。

5. アスリートコミッション委員長代理

コミッションでは、委員長代理のポジションを作り、委員長を補佐することをカウンシルに提案した。コミッションの活発化を更に図ることが目的である。



写真2 Athletics for Better World
でモロッコの村の訪問



IAAFアスリートコミッションのメンバー (左から5番目が室伏氏)

国際陸上競技連盟 (IAAF) から各国陸連等に発信される通達文書一覧

国際陸上競技連盟 (IAAF) は、各種伝達事項を、サーキュラー (通達) として各国陸連をはじめ関係者に送付している。2014年に発信された全通達のタイトルは次の通りである。

このうち IAAF カウンシル会議での重要決定事項等については、陸連時報に IAAF カウンシル会議報告で掲載しているので、過去の陸連時報をご参照頂きたい。

なお、各通達番号の最初の英文字 "M" は「各国陸連宛て」を示し、次の数字は通し番号、最後の数字は年を示している。

(例) 「M/01/14 IAAF 世界記録リスト」は「2014年第1通目の各国陸連宛通達」であることを示す。

M/01/14	2014年IAAF世界記録リスト	2014年1月1日
M/02/14	2013年 年次報告について	2014年1月14日
M/03/14	ワールドアスレチックデー 2014について	2014年1月15日
M/04/14	IAAF Women in Athletics 賞について	2014年1月16日
M/05/14	世界ジュニア選手権大会の案内 (2014年7月22日～7月27日、アメリカ・ユージン)	2014年1月21日
M/06/14	IAAF 主催競技会参加時の旅行医療保険加入について	2014年1月24日
M/07/14	Worldrunning.com ウェブサイトについて	2014年1月23日
M/08/14	IAAF 世界選手権2015北京大会 競歩パーミット大会の承認申請について	2014年1月29日
M/09/14	IAAF 世界ユース・コーチカンファレンスの案内 (2014年7月28日、アメリカ・ユージン)	2014年1月30日
M/10/14	IAAF 競歩 ピットレーン規則について	2014年1月31日
M/11/14	IAAF 各種申請書類の提出期限と IAAF オフィスの休業日について	2014年2月4日
M/12/14	IAAF 主催競技会の開催立候補受け付けについて	2014年2月19日
M/13/14	第49回IAAF総会議事録 (2013年、モスクワ)	2014年2月24日
M/14/14	IAAF IT インフラ整備について	2014年5月2日
M/15/14	IAAF カウンシル会議 決定事項と各種情報 (2014年4月14日～15日、セネガル・ダカール)	2014年5月9日
M/16/14	ユースオリンピック競技大会 (2014・南京) について	2014年7月7日
M/17/14	IAAF 世界選手権2015北京大会 チームリーダーの事前視察について	2014年7月24日
M/18/14	IAAF カウンシル会議 決定事項と各種情報 (2014年7月20日～21日、アメリカ・ユージン)	2014年8月11日
M/19/14	第50回IAAF総会及び世界陸上競技選手権大会について (2015年8月、中国・北京)	2014年10月13日
M/20/14	IAAF 競技者代理人規定 (世界30傑対象) について	2014年10月15日
M/21/14	世界クロスカントリー選手権の案内 (2015年3月28日、中国・貴陽)	2014年11月6日
M/22/14	IAAF カウンシル会議 決定事項と各種情報 (2014年11月18日～20日、モナコ)	2014年11月28日
M/23/14	IAAF 規則第3条 ドーピング防止と医事について	2014年12月11日
M/24/14	第50回IAAF総会 開催案内 (2015年8月19日～20日)	2014年12月18日
M/25/14	第50回IAAF総会について (2015年8月19日～20日)	2014年12月18日
M/26/14	IAAF 倫理規定 (2015年1月1日有効) について	2014年12月19日
M/27/14	2014年IAAF通達発信一覧	2014年12月19日

大会観戦ガイド

第98回日本陸上競技選手権大会男子・女子20km競歩 兼第15回世界陸上競技選手権大会(2015/北京) 男子・女子20km競歩代表選手選考競技会 第26回ジュニア選抜競歩大会

昨年は鈴木雄介選手(富士通)が日本記録を更新し、盛り上がりを見せた日本選手権競歩。今回も有力選手が出場します!

▼日時: 2015年2月15日(日)

▼コース: 兵庫・六甲アイランド甲南大学周辺コース

▼種目・スタート時刻

男子20km競歩(日本選手権) 9時50分

女子20km競歩(日本選手権) 10時10分

ジュニア男子10km競歩

8時50分

ジュニア女子5km競歩

9時00分

▼問い合わせ: 一般財団法人

兵庫陸上競技協会

TEL 078-231-1771

▼日本陸連HP内大会ページ

<http://www.jaaf.or.jp/>

taikai/1226/



昨年、男子20km競歩のトップ争い

第29回福岡国際クロスカントリー大会 兼第41回世界クロスカントリー選手権大会 代表選手選考競技会

今年は第41回世界クロスカントリー選手権大会代表選手選考競技会として行う福岡クロカン。大自然の中の白熱したレースをお楽しみ下さい!

▼日時: 2015年2月21日(土)

▼会場: 国営海の中道海浜公園クロスカントリーコース
福岡県福岡市東区西戸崎

▼アクセス:

JR香椎線博多駅発、香椎経由、西戸崎駅下車

福岡市営渡船ベイサイドプレイス発、西戸崎港下船

西鉄バス天神発、西戸崎駅前下車

UMINAKA LINEもち(マリゾン)発、海の中道下船

▼種目・スタート時刻

ジュニア女子 4km 11時00分

ジュニア女子 6km 11時20分

ジュニア男子 4km 11時50分

ジュニア男子 8km 12時10分

シニア女子 6km 12時50分

シニア男子 10km 13時30分

中学女子 3人×2km 14時10分

中学男子 4人×2km 14時50分

▼テレビ放送予定:

JNN全国28局ネット

2月21日(土)

15時30分~16時54分

▼問い合わせ: 福岡国際ク

ロスカントリー大会事務局

TEL 092-738-2180

▼日本陸連HP内大会ページ

<http://www.jaaf.or.jp/>

taikai/1227/



昨年のシニア男子10km

東京マラソン2015

兼第15回世界陸上競技選手権大会(2015/北京) 男子マラソン代表選手選考競技会

9回目を迎える東京マラソン。今年の夏に中国・北京で開催される世界選手権の男子代表選手選考会を兼ねています。今年も多くのご支援をお願いします。

▼日時: 2015年2月22日(日)

9時05分(車いす)、9時10分(マラソン・10km)
スタート

▼会場: スタート/東京都庁前

フィニッシュ/東京ビッグサイト(マラソン)、
日比谷公園(10km)

▼コース: マラソン/東京都庁~飯田橋~皇居前~日比谷~品川~銀座~日本橋~浅草雷門~築地~豊洲~東京ビッグサイト、10km/東京都庁~飯田橋~皇居前~日比谷公園

▼テレビ放送予定: フジテレビ系全国ネット

2月22日(日)

9時00分~

▼交通規制のご案内: 警視

庁東京マラソン2015交通

対策事務局

TEL 03-3581-4321(代)

[http://www.keishicho.](http://www.keishicho.metro.tokyo.jp/)

[metro.tokyo.jp/](http://www.keishicho.metro.tokyo.jp/)

▼問い合わせ: 一般財団法人

東京マラソン財団

TEL 03-5500-6802

▼日本陸連HP内大会ページ

<http://www.jaaf.or.jp/>

taikai/1228/



昨年度、2時間08分09秒で日本人1位(総合8位)となった松村康平選手

第70回びわ湖毎日マラソン大会
兼第15回世界陸上競技選手権大会 (2015/北京)
代表選手選考競技会

男子マラソンの世界選手権代表最終選考会としても、
 熱い争いが繰り広げられます！

- ▼日時：2015年3月1日(日) 12時30分スタート
- ▼会場(スタート・フィニッシュ)：
 滋賀・皇子山陸上競技場
 滋賀県大津市御陵町4-1
- ▼アクセス(皇子山陸上競技場)：京阪石山坂本線別所
 駅から徒歩1分またはJR湖西線大津京駅から徒歩7分
- ▼コース：日本陸連公認びわ湖毎日マラソンコース
 (42.195km) = 皇子山陸上競技場-柳が崎-瀬田唐橋
 西詰-石山寺-瀬田川洗堰-瀬田唐橋東詰-県立漕
 艇場-新瀬田浄水場前折り返し-皇子山陸上競技場
- ▼放送予定：3月1日(日)
 <テレビ> 12時15分~14時55分 NHK総合
 <ラジオ> 12時15分~14時55分 NHKラジオ第1
- ▼問い合わせ：びわ湖毎日マラソン大会事務局
 TEL 06-6346-8249
- ▼日本陸連HP内大会ページ
<http://www.jaaf.or.jp/taikai/1229/>



昨年度のスタート時の様子

名古屋ウィメンズマラソン2015
兼第15回世界陸上競技選手権大会 (2015/北京)
代表選手選考競技会

大型ウィメンズマラソンとして生まれ変わって4年目
 を迎える名古屋ウィメンズマラソン。女子マラソンの世
 界選手権代表選考会として開催します！

- ▼日時：3月8日(日) 9時10分スタート
- ▼会場(スタート・フィニッシュ)：愛知・ナゴヤドーム
 愛知県名古屋市中区大幸南1-1-1
- ▼アクセス(ナゴヤドーム)：地下鉄ゆとりーとライン
 「ナゴヤドーム前矢田駅」から徒歩5分、JR・名鉄
 「大曽根駅」から徒歩約15分
- ▼コース：名古屋ウィメンズマラソンコース
- ▼テレビ放送予定：東海テレビ(フジテレビ系列全国ネット)
 3月8日(日) 9時00分~11時50分(選考レース)

- ▼問合せ先：マラソンフェスティバルナゴヤ・愛知実行
 委員会事務局 TEL 0570-550661
- ▼日本陸連HP内大会ページ
<http://www.jaaf.or.jp/taikai/1230/>



昨年度は30kmまで早川英里選手(左)、木崎良子選手(左から3人
 目)、田中智美選手(同4人目)が先頭集団で健闘

第39回全日本競歩能美大会
兼 Asian 20km Race Walking Championships in NOMI 2015
兼第15回世界陸上競技選手権大会 (2015/北京)
男子・女子20km競歩代表選手選考競技会
併催 第9回日本学生20km競歩選手権大会

アジア選手権を兼ねて開催する本大会。日本のトップ
 ウォーカーがアジアNo.1を目指してハイレベルな争い
 を繰り広げます。また、今夏、中国・北京で開催される
 世界選手権の男子・女子20km競歩の代表選手選考競技
 会としても開催します。

- ▼日時：2015年3月15日(日)
- ▼コース：石川県能美市・日本陸上競技連盟公認能美市
 営20kmコース(2.0km周回コース)
- ▼アクセス(石川県能美市浜小学校付近)：
 小松空港からタクシーで約15分。北陸本線小松駅も
 しくは寺井駅下車、小松駅からタクシーで約15分、
 寺井駅からタクシーで約3分、徒歩約7分。
- ▼種目・競技時間：
 <男子> 中学生 3km競歩 9時05分
 全日本・Asian・学生選手権
 20km競歩 9時45分
 <女子>
 中学生 3km競歩 9時00分
 全日本・Asian・学生選手権
 20km競歩 11時35分
- ▼問い合わせ：
 第39回全日本競歩能美大会
 実行委員会事務局
 TEL 0761-58-2273
- ▼日本陸連HP内大会ページ
<http://www.jaaf.or.jp/taikai/1231/>



昨年度の大会より

JAAF TOYAMA 一般財団法人富山陸上競技協会

〒939-8234 富山市南中田368番地
富山県総合運動公園陸上競技場内
TEL.076-461-5917 FAX.076-461-5927
http://www.jaaf-toyama.net/

本県では、昨年9月1日より協会事務局を富山県総合運動公園陸上競技場に移し業務を行っております。

また、メインスタジアムの走路を昨年全面オーバーレイとし大変きれいで走り易い競技場に成り、好記録が続出し関係者一同大変喜んでおります。

そのほかにも、別棟にあります雨天練習場を改修し、60m・3レーンのオールウェザー仕様とし、両サイドには棒高跳用BOX 2個を完備し、既に、冬季練習から使用しております。

フィールドも60m×65mの人工芝となっております。雪の多い本県にとっては大変ありがたい施設となっております。

競技成績では、昨年の長崎国体では40.5点と最近にない好成绩でしたので、上記の施設が出来、更なる競技力向上が期待されます。

今年度は全国大会、地区大会も無いという珍しい年になりますが、その分ロードが増えます。また、今年の11月1日に第一回の富山マラソンを開催し、4月1日より参加申し込みが開始されますが、その前にプレ大会として3月22日に第25回神通川マラソンを開催しますので皆さんの参加をお待ちしております。

(文責：専務理事 川島茂)

JAAF FUKUI 一般財団法人福井陸上競技協会

〒918-8585 福井市三十八社町33-66 フクビ化学工業株式会社内
TEL.0776-38-0360 FAX.0776-38-0361
http://www.fukui-jaaf.com/

一般財団法人福井陸上競技協会では1月25日(日)に福井地域交流プラザアオッサ8階大ホールにて『アスレティックアワード2014』を開催しました。これは、福井県内の小学生・中学生・高校生・大学生・一般・小学生優秀指導者のなかで活躍した選手・指導者総勢176名に対し表彰する行事であります。

この表彰式には、陸上競技協会関係者、福井陸上競技協会に日頃より支援していただいている企業の皆様、保護者の皆様一堂に集い選手を激励するという趣旨で実施しております。表彰式後は懇親会を開催し、選手、保護者、スポンサーの皆様、陸協関係者が楽しく歓談しました。この中から、2018年福井しあわせ元気国体・2020東京オリンピックに出場し、活躍する選手がでることを祈っております。

(文責：専務理事 木原靖之)



JAAF ISHIKAWA 一般財団法人石川陸上競技協会

〒923-1244 能美市来丸町750 物見山陸上競技場内2階
TEL.0761-51-3222 FAX.0761-51-3222
http://gold.jaic.org/jaic/member/ishikawa/index.htm

平成27年の年明けも、元旦恒例の金沢城一周をコースとする県耐寒継走選手権大会で始まりました。午前8時30分の号砲と共に、一面の銀世界の中を疾走するランナー達から、1年の健康と飛躍を汲み取ることができました。この大会をスタートに、石川陸協の新年の大会が開始したわけですが、3月、4月には2つの全日本競歩大会を開催します。

まず、3月15日に、第39回全日本競歩能美大会が予定され、今年北京で開催される世界陸上の男女20km競歩選手選考や、ユニバーシアード日本代表選手選考会に位置づけられており、白熱したレースが展開されると期待しています。また、4月18、19日には、第54回全日本競歩輪島大会及び第99回日本選手権50km競歩大会が予定されています。この大会も能美大会と同様に、男子50kmの世界陸上代表選手選考会となっております。昨年のアジア大会でも、競歩選手の活躍が目覚ましかったのは記憶に新しいところです。一つの県で全日本の冠のついた競歩大会が、同時期に二つ開催されるのは、石川県だけではないでしょうか。こうした背景には、やはり北陸人特有の粘り強い雪国根性が根底にあるのではないのでしょうか。そうした環境の中で歴史を重ね、指導者育成や競技者人口の拡大、ジュニアの発掘など、多くの努力が重ねられている結果だと思っております。

能美大会の前日に、北陸新幹線東京～金沢間が開通し、3月30日には、能登を舞台としたNHKの連続テレビ小説「まれ」が放送開始となります。この機会に是非石川を訪れて下さい。

(文責：副理事長 山本徹)

JAAF NAGANO 一般財団法人長野陸上競技協会

〒386-0151 上田市芳田1656-1 杉崎憲雄様方
TEL.0268-35-2132 FAX.0268-35-2132
http://nagano-rk.com/

昨年5月31日、6月1日に行われた、長野市開催3年目となった第98回日本選手権混成競技・第30回日本ジュニア選手権混成競技は、1位の右代啓祐選手が、8308点で日本新記録を樹立し、2位の中村明彦選手も8035点と2人そろって8000点の大台を突破し、長野で歴史的瞬間を迎えることができました。

日本選手権混成競技を主管する長野陸上競技協会は、長野開催で達成された好記録に大会役員一同大変感激しました。

第96・97・98回の3大会を以て長野市開催は終了する予定でしたが、99回大会以降も引き続き長野市で開催することに決定しました。

日本選手権混成競技は、長野陸上競技協会の審判員の資質の向上に大変寄与したと思います。2016全日本中学校陸上競技選手権大会が松本市開催で予定されており、この大会で培った資質をさらに高めたいと考えております。

また、1月18日に行われた天皇盃第20回全国都道府県対抗男子駅伝競走大会は、昨年に続いての優勝はできませんでした。しかし、2区と6区の中学生区間においてそれぞれ3位・2位と来年に向けて期待が持てる結果を残してくれました。

事務局からのお知らせ

◆◆第22回全国中学校駅伝大会、男子第65回・女子第26回全国高等学校駅伝競走大会の動画を公開しています！◆◆

2014年12月14日（日）、山口県セミナーパーク・クロスカントリーコースで開催した第22回全国中学校駅伝大会、12月21日（日）、京都府・京都市西京極総合運動公園陸上競技場スタート・ゴールで開催した男子第65回・女子第26回全国高等学校駅伝競走大会の動画を公開しています。

《全国中学駅伝・全国高校駅伝動画サイト》

<http://japanathletics.tv/>

若きアスリートの熱戦を動画でお楽しみ下さい。



今年度の全国中学駅伝より



今年度の全国高校駅伝より



◆◆マラソンに取り組む市民ランナーの安全10カ条◆◆

全国各地でマラソン大会が開催され、マラソンシーズン真っ盛りを迎えておりますが、レース参加に当たっては、下記、「マラソンに取り組む市民ランナーの安全10カ条」をよくお読みの上、ご参加ください。

1. 普段から十分な栄養と睡眠を取りましょう。
2. 喫煙習慣をやめましょう。
3. メディカルチェックを毎年受けましょう。
4. 生活習慣病がある方は、かかりつけ医とよく相談しましょう。
5. 計画的なトレーニングをしましょう。
6. 気温、湿度に適したウェアの着用と、適切な水分補給をしましょう。
7. 胸部不快感、胸痛、冷や汗、ふらつきなどがあれば、すぐに走るのを中断しましょう。
8. 足、膝、腰などに痛みがあれば、早めに対応しましょう。
9. 完走する見通しや体調に不安があれば、やめる勇気を持ちましょう。
10. 心肺蘇生法を身に付けましょう。

また、本連盟WEBサイト・医事委員会のページに「市民マラソン・ロードレース申し込み時健康チェックリスト」を掲載しています。

<http://www.jaaf.or.jp/medical/healthcheck20130411.pdf>

こちらもお読みの上、ご参加ください。



◆◆第99回日本陸上競技選手権大会(2015/新潟) 特設WEBサイトをオープンしました◆◆

2015年6月26日（金）～6月28日（日）に新潟県新潟市・デンカビッグスワンスタジアムで開催する第99回日本陸上競技選手権大会。早くも特設WEBサイトをオープンしました。今夏、北京で開催される第15回世界陸上競技選手権大会の代表選手選考競技会を兼ねる本選手権の情報を随時アップしていきますので、ぜひアクセスしてください。

《特設WEBサイト》 <http://www.jaaf.or.jp/jch/99/>

陸連時報編集委員

◇編集委員

横川 浩（陸連会長）
三宅 勝次（陸連副会長）
友永 義治（陸連副会長）
尾縣 貢（陸連専務理事）
原田 康弘（陸連強化委員長）
風間 明（陸連事務局長）
牧野 豊（陸上競技マガジン編集長）

◇時報編集室責任者

大嶋 康弘
◇時報編集担当
繁田 進
石塚 浩
木越 清信
宮田 宏
本田香代子
森谷 真咲

陸連時報編集室

〒163-0717

東京都新宿区西新宿2-7-1

小田急第一生命ビル17階

公益財団法人日本陸上競技連盟 内

TEL 03-5321-6580

FAX 03-5321-6591

ウェブサイト <http://www.jaaf.or.jp/>

公式動画サイト <http://japanathletics.tv/>